

設計趣旨

学生宿舎から、**変化**を生み出す。

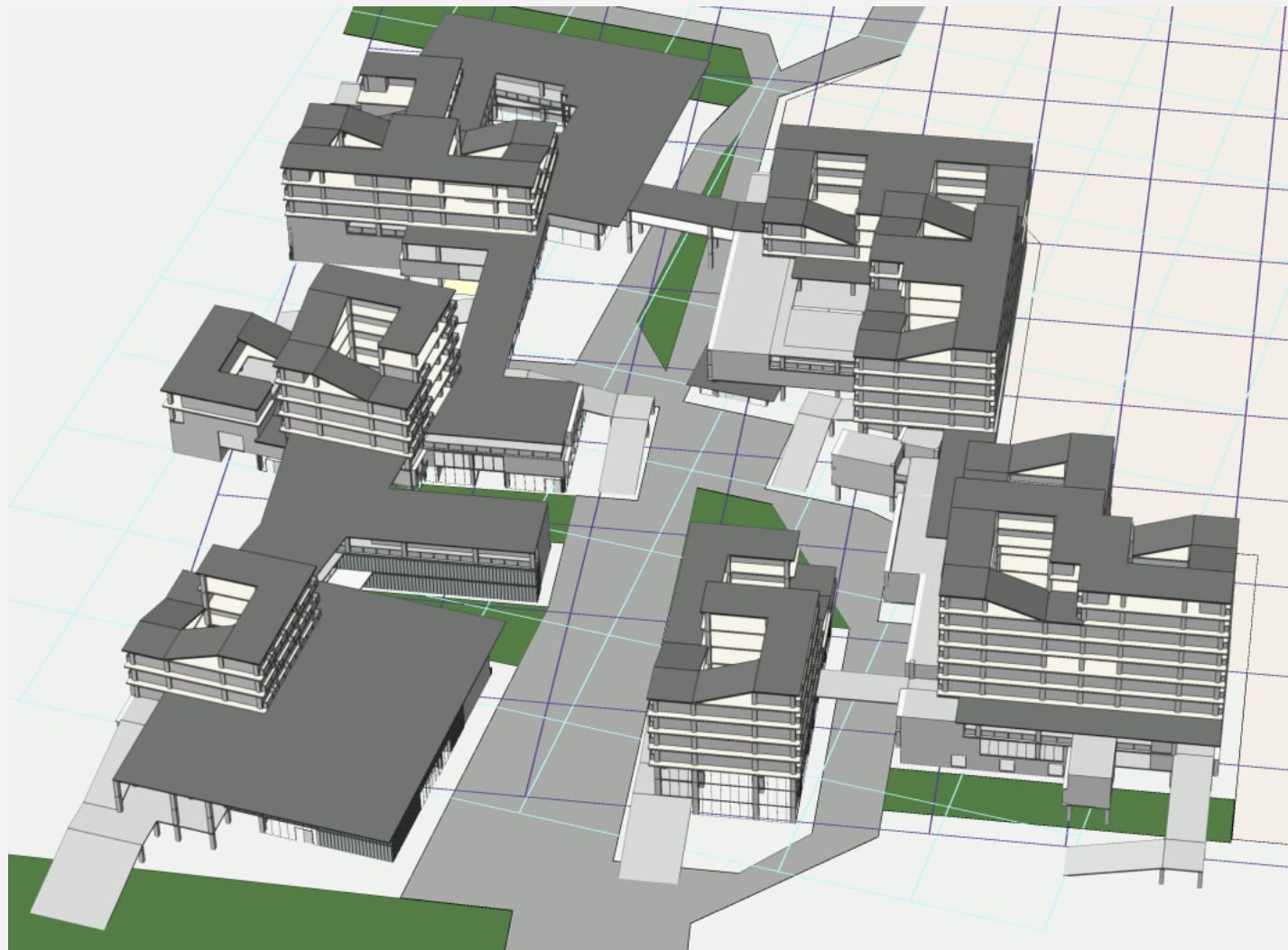
開かれた大学を理念として生まれ、開学から50年を過ぎた筑波大学。変わりゆく時代のなか、学生宿舎を舞台に、開かれた大学を考える。帰る場所から**集う場所**に。

住むだけの場所から**学ぶ場所**に。

学生のためだけの場所から**地域に開かれた場所**に。

らしさを受け継ぎながら、**変わっていく**。

開かれた大学が果たすべき使命を、学生生活に最も近い場所から。



01 継承と変化

従前の学生宿舎の設計思想である「都市的なイメージ」を受け継ぎ、グリッドパターンで棟を配置。以前からの宿舎建物に**倣ったグリッド**に加え、新たに**筑波山に向かう象徴的なグリッド**を取り入れる。2つのグリッドを組み合わせ、棟配置に**変化**を生み、**継承と変化**を表現する。

02 変化を表現するかたち

建物は、角を削ったかたちに。圧迫感を低減して、単調な印象を与えない。建物上部と下部でも外観を異なるかたちに。建物のかたちでも**変化**を表現する。

03 交流を生む仕掛け

A：共有スペースの一部は**学生のためだけの場所**から**地域に開かれる場所**に**変化**する。ギャラリー・食堂・図書スペース・コミュニケーションスペースなどで、地域との新たな交流を生み、共創を育む。

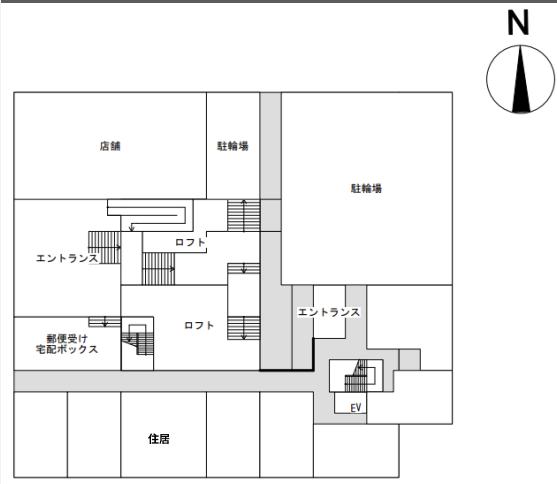
B：建物上部の居住スペースには、パティオのような吹き抜けを設置。部屋の配置も、**従来の横並び**から**吹き抜けを囲う配置**に**変化**。視線の交錯を促し、学生同士の交流を促す。

C：建物3階部分は、渡り廊下ですべての棟がつながる。水回り設備やランドリールームなど、生活に必要な不可欠な共用設備を配置。**これまでの共用「棟」**から**共用「フロア」**に**変化**し、平面的なつながりで学生同士のコミュニケーションを育む。

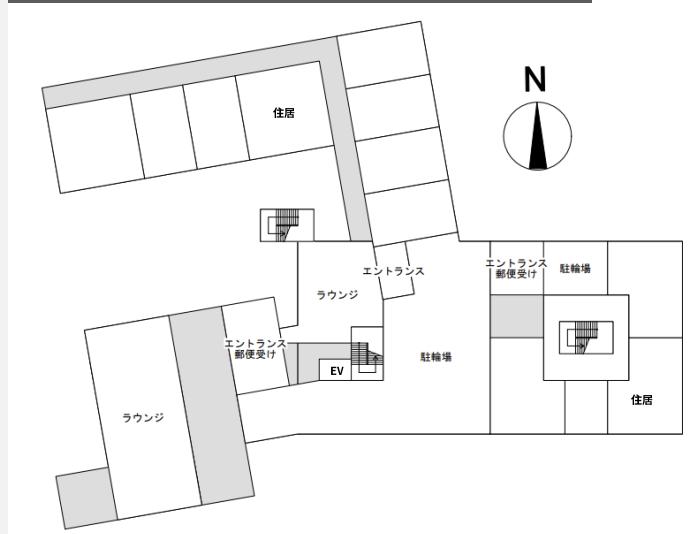
作品概要書 筑波大学理工学群社会工学類3年 佐藤吉矢

図面・パース

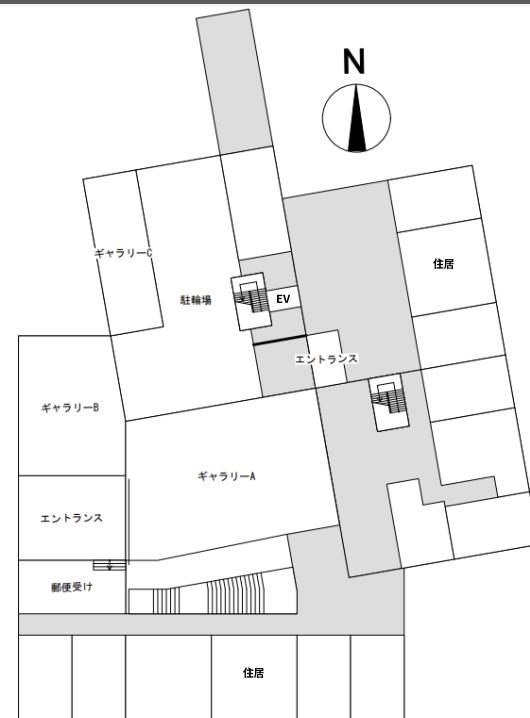
A棟1階平面図 S=1:1000



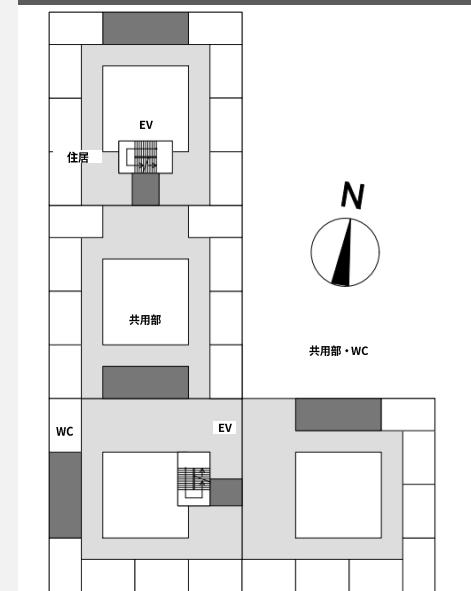
B棟1階平面図 S=1:1000



C棟1階平面図 S=1:1000



住居部 (4~10階) 基準階平面図 S=1:1000



A棟パース



B棟パース



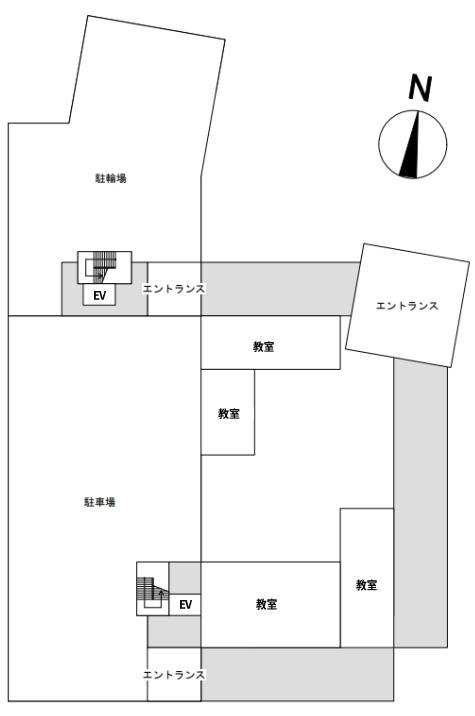
C棟パース



作品概要書 筑波大学理工学群社会工学類3年 佐藤吉矢

図面・パース

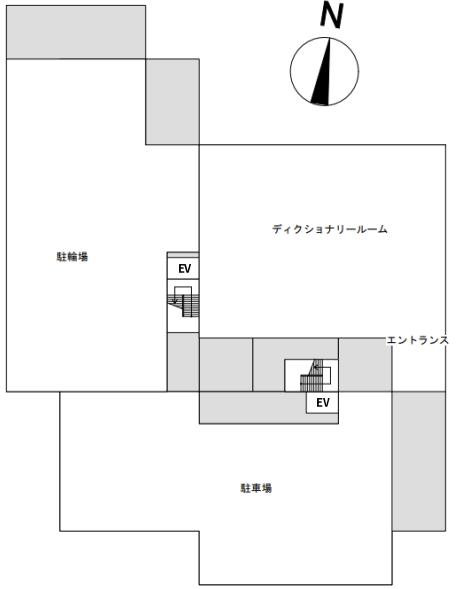
D棟1階平面図 S=1:1000



D棟パース



E棟1階平面図 S=1:1000



E棟パース



3階平面図 S=1:2000

